

令和3年11月19日  
(2021年)

保護者の皆さま

吹田市立青山台小学校  
校長 熊野 厚博

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月初旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ◆国語《概要》

◎国語【主として『知識及び技能』に関する問題】

平均正答率は全国値を上回っている。無回答率は低い。

◎国語【主として『思考力・判断力・表現力』に関する問題】

平均正答率は全国値を上回っているが、話すこと・聞くこと分野には課題がある。

《各領域における成果と課題》

**話すこと・聞くこと**

\*全国の平均正答率をやや下回っている。

\*「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」では、「スピーチメモ」の内容を捉えることに課題がある。

**書くこと**

\*全国の平均正答率を上回っている。

\*「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」ことに課題がある。また「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する」ことはできているが、条件を満たして要約することに課題がある。

**読むこと**

\*全国の平均正答率を上回っている。

\*「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」について、全国値を上回るものの、正答率が低く少し課題がある。

\*「文の中における主語と述語との関係を捉えること」は正答率がやや低かった。

**言葉の特徴や使い方に関する事項**

\*全国の平均正答率を上回っている。

\*漢字の使い方について正答率がやや低い問題がある。

《国語科における今後の指導改善点》

◇国語科に留まらず、自分の考えや感想をその根拠を明確にしながら条件に合うように書く学習を多く取り入れる。

◇目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読めるようにする。さらに主題にせまり自分の考えとの共通点や相違点を見付け、内容理解を深め、自分の考えも深められるようにする。

◇文章量の多い課題に慣れさせ、設問課題を最後まで読み、何を問われているのかを自身で整理できるようにする。

◇意見交流する場を多く設け、話の展開に沿った質問の仕方を具体的に示すことや話し合いの方法など相互に伝え合う活動を行う。また、発言の意図を相手にわかりやすく伝え合う学習も取り入れていく。

◇文節の働き（主語・述語・修飾語など）のある課題に繰り返し取り組む必要がある。特に中学年で学習する修飾語の学習指導を徹底的に行う。

◇漢字個々の意味を理解した上で、言葉の意味を考える必要がある。語彙を増やしていく取り組みを行っていく。

#### ◆算数《概要》

◎算数【主として『知識・技能』に関する問題】

平均正答率は全国値を上回っている。無回答率は低い。

◎算数【主として『思考・判断・表現』に関する問題】

平均正答率は全国値を上回っている。無回答率はやや高い。

《各領域における成果と課題》

**数と計算**

\*平均正答率は全国値を上回っている。

\*「商が1より小さくなる等分徐の場面で場面から数量の関係を捉えて、除法の式に表し、計算する」については、正答率がやや低い。

\*「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる」については、正答率はやや低い。無回答率はやや高い。

**図形**

\*平均正答率は、全国値を上回っている。

\*すべての問題で全国値を大きく上回っているものの、基本的な図形の面積の公式を理解することに課題がある。

**測定**

\*平均正答率は全国値を上回っている。

\*「条件に合う時間を求めることができる」や「2つの道のりの差の求め方と答えを書く」では、平均正答率が全国値を上回っている。

**変化と関係**

\*平均正答率は全国値をやや上回っている。

\*「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」では、平均正答率が全国値を上回っているものの正答率はそれほど高くなく、課題が見られる。

\*「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」については、平均正答率は全国値をやや上回るものの、速さ、道のり、時間の関係を理解することに課題がある。

**データの活用**

\*平均正答率は全国値を上回っている。

※「帯グラフから、割合の違いが、1番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」で選ぶ項目は正解しているが、割合を表す言葉の記述がなく、問題の条件を満たすことに課題がある。

《算数科における今後の指導改善点》

- ◇基礎的な計算は概ねできているが、初歩的な位のミスや計算ミスが見られるため授業や宿題で引き続き練習していく。
- ◇自分の考えを図や言葉、式に表す力が弱く、そのまま無回答にする児童も多いため、普段の授業から自分の考えを図や言葉で少しでも記述できるように指導していく。
- ◇無回答率の高い設問はいずれも、長い文章から答えを導くために必要な数値を選択し、式や言葉で表すことを求められているものである。普段より、算数科に留まらず、文章をしっかりと読む習慣や、日常の数学的事象に目を向け、複数の数値の中から必要な情報を選択する練習が必要である。
- ◇単に計算の仕方を覚えて習熟に力を入れるだけでなく、図や数式、言葉などの条件を選び出し、求め方を文に表す学習を増やす。
- ◇児童に求め方を説明させたり、ほかの児童の考え方を代わりに説明させたりする中で、設問に求められる条件を見つける学習を積極的に設ける。

## 2 児童質問紙の結果 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

〔家庭生活のこと〕

※「自分にはいいところがある」と答えた割合は、全国値を上回っている。

※「将来の夢や目標」は、肯定的回答が全国値を上回っている。

※「朝食」を食べ、毎日同じ時刻に起床できている。

※「自分で計画的に学習している」と答えた割合は、全国値を上回っている。

※「平日1時間以上勉強している」割合が、全国値を上回っている。

※「普段1日あたりの読書時間が1時間以上」と答えた児童が約2割強に対し、ほとんど読まない児童も約2割いる。

※週末には「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」と答えた割合が全国値を上回っている。

※「難しいことでも、恐れなくて挑戦していますか」の問いに肯定的な回答が全国値を上回っている。

※「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方」について、家の人と約束をしたことを「きちんと守っている」と答えた児童は全国値を上回っているが、一方で「約束はない」と答えた児童も全国値を上回っている。

※「新型コロナウイルスの感染拡大で休校期間中に、計画的に学習を続けることができましたか」の問いでは肯定的な回答が全国値を上回った。

※「新型コロナウイルスの感染拡大で休校期間中に、規則正しい生活を送っていましたか」の問いでは「送っていた」が、全国値とほぼ同じで4割近くの児童が「送っていない」と回答している。

〔学校生活のこと〕

※「学校に行くのは楽しい」と答えた割合は、全国値をやや下回っている。

※「自分と違う意見について楽しい」の問いでは肯定的回答が、全国値よりやや低い。

※「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができている」と感じている児童は、全国値を上回っている。

※「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしていますか」という問いに対して肯定的な回答をしている児童が多い。

※「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように書いていますか？」という問いに対して肯定的な回答をしている児童は、全国値を上回っている。

※「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と肯定的な回答が、全国値を上回っている。一方で「算数勉強は好き」と答えた児童は、全国値を下回っている。

※「算数や国語の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役に立つと思いますか」という問いに対して肯定的な回答をしている児童は全国値をやや上回っている。

※「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と答えた割合は、全国値を上回っている。

※「英語の授業が好きですか」との問いに対しては、肯定的な回答が全国値を大きく下回っている。一方で「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか」という問いに対しては「あった」という回答が、全国値を大きく上回っている。

## 3 課題及び今後の取り組み

◇本校の児童は、全国平均と比べおおむね満足できる学力ではあるが、授業は好きかと問いに否定的な回答をする児童が一定数存在する。今後も、授業の目標を明確にするとともに、対話的な学習形態をより一層取り入れ、問題解決的に学習を進め、児童の体験的な活動を増やし、児童が主体となる授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めていきたいと考えている。

◇本校では、算数の少人数指導を3～6年まで実施し、個に応じた指導の充実を図っている。今後も少人数指導の効果を高め、基礎的な学力向上に努めるとともに、様々な考え方で最後まで考え抜く児童を育てたいと考えている。

◇「いじめがいけないことである」と答えた割合は全国値と大差ないが、そうだと思わない児童も少数いるということを懸念し、児童全員がいけないことという共通認識を持てるよう指導する必要がある。

◇「自尊感情」が高い児童や「将来の夢や目標」を持つ児童も多いことがわかる。これらは、学校生活を送るうえで何かをやるとういう意欲の源であり、まわりの人を受け入れて良好な人間関係を築くために必要なものである。今後もご家庭と協力しあって取り組んでいきたいと考えている。

◇スマートフォンの普及、iPadの配付に伴う、「インターネット」の利用のルールについて、家庭でのルールがないという状況が存在している。デジタルシティズンシップ教育の考え方で、学校と家庭で連携し、正しい情報機器の使い方を子供たちに教えていく必要がある。ご協力をお願いします。

◇朝食を毎日摂取する事は習慣になっているが、「就寝時間と起床時間が一定ではない」児童もいることがわかる。今後、スマホートフォンの普及や学習による就寝時刻の不安定により、起床時刻が遅くなり、生活リズムが崩れてくることも予想されるので、児童の自立的な生活態度の確立に向けて、家庭のご協力をお願いします。

◇英語教育については、今年度より高学年は専門教員とAETによる授業を行っているが、まだまだ子供たちに英語を使う楽しさが伝え切れていないと思われる。本校は外国籍の児童も多く、英語を使う機会は今後も増えていくと考えられる。授業研究、教材づくりに今後もさらに取り組んでいく。

◇また、「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童は全国値を上回っている。「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができているですか?」「友達と話し合うときや友達の話や意見を最後まで聞くことができているですか?」の問いにも肯定的な回答が全国値を上回っている。一方で学校が楽しくない、違う意見について考えることに否定的な児童もいる。授業や学校行事を通して、日々の取り組みに達成感を持たせるような工夫をしていく。

今後とも本校教育活動の推進、ならびに、児童の健全なる成長を促していくために、保護者の皆様のご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。